

「探究的な学びの中心となる生活科・総合的な学習の時間」について

講師 東京未来大学特任教授 鈴木亮太 先生

1 なぜ、「探究的な学び」

「VUCA（ブーカ）」・「Society（ソサエティー）5.0」の現代を生きぬくためには、子どもたちに探究的に生きる態度をはぐくまなければなりません。つまり、探究的な人（人間）を育てなければならず、そのためには、より一層「探究的な学び」の重要性が増しています。←そのための、「個別最適な学び」「協働的な学び」が不可欠となります。

探究的な人（人間）とは、自己課題（問題）に対して、自らで考え、自らで行動して、問題解決できる人、と考えます。→ ※ 探究的な人（人間）とは、「認知能力」、「非認知能力」を身に付けている人ではないでしょうか。

2 「探究的な学び」の中心（モデル）となる「総合的な学習の時間」の本質

「総合的な学習の時間」の究極のねらいは、「自己の生き方を考えることができる」子どもたちをはぐくむことです。このことは、（初版）小・中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成20年9月）第2章総合的な学習の時間の目標第1節 目標の構成に下記の通り、記載されています。ご参照ください。

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

また、総合的な学習の時間だからこそできることは、下記のようなことではないでしょうか。

- ① 子どもが自分のやりたいことにじっくり取り組める。
- ② 自分の住んでいる地域について学習できる。
- ③ 学んだことが、自分の生き方を見つめ直すきっかけになった。

3 「探究的な学び」の中心（モデル）となる「総合的な学習の時間」の本質

生活科の目指す子どもの姿は、「自立し、生活をよりよいものにしていく」ということであり、生活科創設時からの目標は、「自立への基礎を養う」ことであり、具体の姿は、「自分で考えて自分で行動できる姿」だと考えます。

※「なんだろう」「どうしてだろう」「おもしろそう」「やってみたい」、そんな子どもの“わくわく・ドキドキ”こそ、子どもの生活科における活動の原動力です。そして、この原動力が中学年へとつながる探究的な学びの基礎を培うことになります。